



英語で絵本の読み聞かせ

Let's enjoy English

6月1日、鹿児島市のALT（外国語指導助手）のみなさんによるおはなし会「Let's enjoy English」が行われました。

「はらぺこあおむし」や「お手紙」といった日本でも馴染みの作品を英語で読んでくださいました。英語に親しむ貴重な機会となりました。

次の開催は11月16日（土）です。



【「Let's enjoy English」の様子】

読み聞かせの基本を学びました

親子読書グループ等研修会

6月5日、幼稚園や小学校などの親子読書グループ22団体、およそ50人が集い、読み聞かせの基本を学びました。

絵本の読み方以外にも、本の選び方やページをめくるタイミングなど、新たな学びがたくさんあり、大変充実した研修会になりました。



【研修会の様子】

夏休みも図書館へ！

夏休み中のイベント

今年も夏休みの宿題に役立つ「読書感想文書き方教室」と「図書館アドベンチャー」を開催します。

現在、申込受付中です。先着順になるため、申込はお早めをお願いします。申込方法等の詳細は、館内や図書館ホームページに掲載されています。

◆読書感想文書き方教室◆

読書感想文の書き方のポイントを楽しく学びます。

【日時】7月28日（日）・29日（月）

8月18日（日）10:00~17:00

※3日とも同内容

【場所】市立図書館2階AVホール

【対象】小学3年生～6年生

【定員】それぞれ先着20名



◆図書館アドベンチャー◆

図書館の裏側を探検し、自分が生まれた日の新聞を見付けます。

【日時】7月27日（土）14:00~15:30

8月24日（土）14:00~15:30

【場所】市立図書館2階AVホール

【対象】小学4年生～中学3年生

【定員】それぞれ先着20名





行事予定

日	曜	行事等
6	土	がらがらどんおはなし会 キッズタイム「がらがらどん七夕まつり」
7	日	自分史づくり講座③
12	金	あかちゃんのためのおはなし会
13	土	キッズタイム(りとるコアラ)
14	日	高校生ビブリアバトル 2019 図書館シネマ「六月燈の三姉妹」
19	金	大人のための夜の詩とおはなしの会
20	土	がらがらどんおはなし会 キッズタイム(鴨池小「絵本の時間」) ストーリーテリング講座③
21	日	自分史づくり講座④
24	水	平和都市宣言展(～8/21)
26	金	あかちゃんのためのおはなし会
27	土	キッズタイム「図書館アドベンチャー③」
28	日	読書感想文書き方教室①
29	月	読書感想文書き方教室②

一般書貸出ベスト 10

(6月21日現在)

- | | | |
|----|-------------|-------|
| 1 | キンモクセイ | 今野 敏 |
| 2 | 九十歳。何がめでたい | 佐藤 愛子 |
| 3 | 木曜日の子ども | 重松 清 |
| 4 | コーヒーが冷めないうち | 川口 俊和 |
| 4 | 蜜蜂と遠雷 | 恩田 陸 |
| 4 | マスカレード・ナイト | 東野 圭吾 |
| 4 | フーガはユーガ | 伊坂幸太郎 |
| 4 | 昨日がなければ明日もな | 宮部みゆき |
| 4 | 平場の月 | 朝倉かすみ |
| 10 | 虚ろな十字架 | 東野 圭吾 |
| 10 | かがみの孤城 | 辻村 深月 |

※ ランキングの詳細は、図書館ホームページにも掲載してあります。



準備はお早めに！ 夏休み自由研究参考図書展 (～9月2日)



まもなく夏休みが始まります。現在、市立図書館では「夏休み自由研究参考図書展」を開催中です。理科の自由研究を中心に、社会科の調べ学習、読書感想文の書き方、工作などの参考になる本をそろえています。必ず役に立つ一冊が見つかると思います。例年、夏休みに入ると、貸出が集中します。なるべく早めにお越しください。



新着おすすめ本の紹介



キャバレー

著者：ビートたけし
出版社：文藝春秋
請求記号：Fピト

駆け出し芸人・綾小路きみまろは、酔っ払い相手の漫談から、いつか売れる日を夢見るが…。70年代に花開いたキャバレーを舞台に綴る、笑いと哀愁とノスタルジー溢れる長編小説。『オール讀物』掲載を単行本化。

インサイド財務省

著者：読売新聞経済部
出版社：中央公論新社
請求記号：317.2イ

「最強官庁」と呼ばれたエリート集団に何が起こったのか。信頼は取り戻せるのか…。政策を担う官僚個人に焦点をあててストーリーを展開し、財務省の実像を伝える。『読売新聞』連載を加筆・修正。

天皇陛下・美智子さま 祈りの三十年

著者：森 哲志
出版社：文藝春秋
請求記号：288.4モ

「どうか、頑張ってください」「その後、村の様子はいかがですか？」温かいお言葉が、人々を勇気づけ、新たな人生に向かわせる。多くの被災地をご訪問された天皇皇后両陛下の足跡を、ご訪問で救われた人々の物語で紡ぐ。